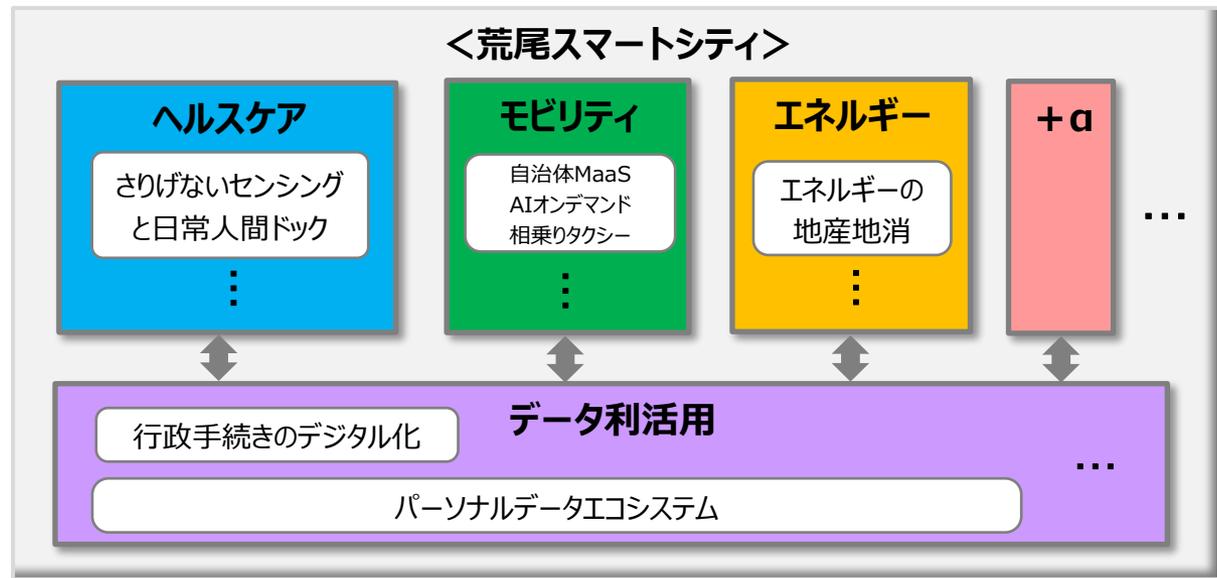


さりげないセンシングと日常人間ドック、再生可能エネルギーの活用と蓄電池・EVの連携制御によるエネルギーの地産地消、オンデマンド相乗りタクシーなどの自治体MaaS、及びパーソナルデータを集中管理ではなく個人管理で安心安全に利活用できるパーソナルデータエコシステムによる横串連携など、多様な先進技術の連携により、住民が最先端のウェルビーイング（心身ともに健康で幸せな状態）を享受できる快適未来都市にする。また南新地地区をリビングラボと位置付け、ニューノーマル時代の新サービス創出拠点を目指す。



■本事業全体の概要

荒尾市民・来訪者・地域事業者



■対象区域の概要

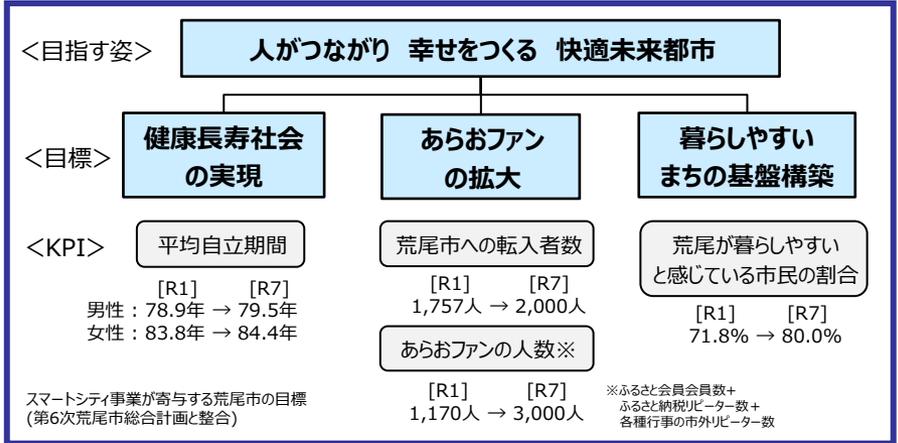
- ・対象：熊本県荒尾市（南新地地区）
- ・人口：約5万人 ・面積：57.37km²
- ※南新地地区にて土地区画整理事業（南新地ウェルネス拠点開発）が進行中
- ※有明沿岸道路の延伸及び荒尾北IC（仮称）が新設予定

■対象区域のビジョン

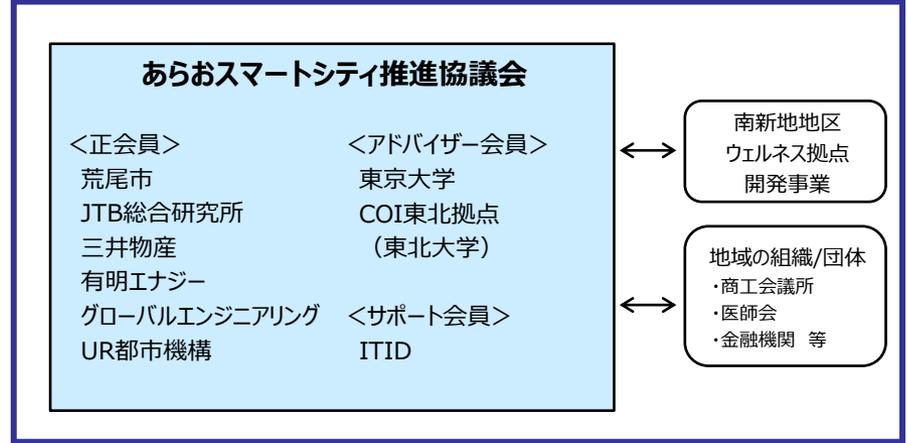


荒尾ウェルビーイングスマートシティ（あらおスマートシティ推進協議会）

■ スマートシティの目標(KPI)



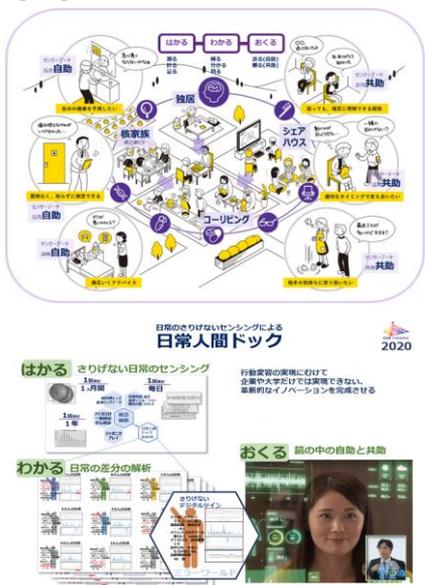
■ 運営体制



■ 導入技術

(現時点で計画中の導入技術であり今後追加の可能性あり)

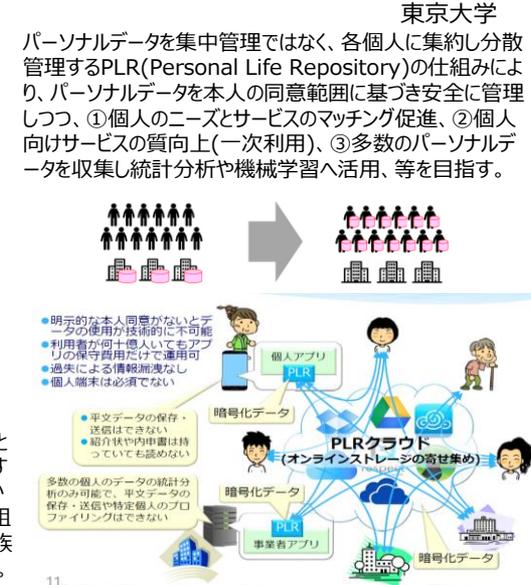
(1) さりげないセンシングと日常人間ドック



センサー群を埋め込み、市民・来訪者が健康の重要性に気づき、交流と健康増進が図れるシステムを目指す。従来のセンサーの「はかる」→「わかる」から一歩進め、「おくる」という仕組みで計測される本人だけでなく、家族等の他者にもデータが届く仕組みへ。

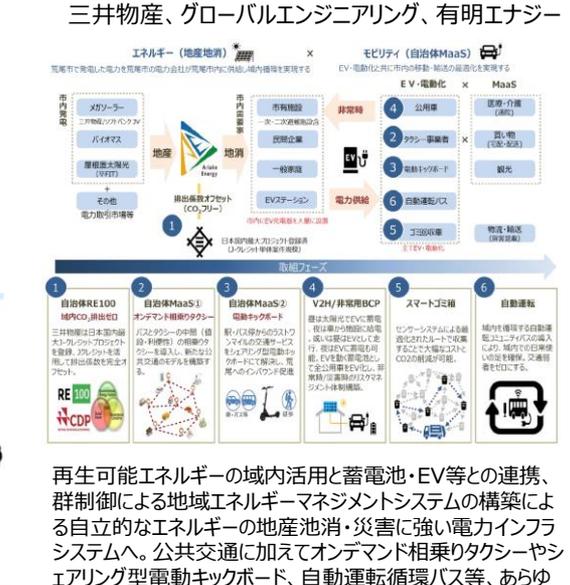
引用:和賀巖,末永智一「さりげないセンシングと日常人間ドックで実現する自動と共助の社会創生拠点」(2020)

(2) パーソナルデータエコシステム



11 引用:橋田浩一・東京大学,明治大学,文教大学,理化学研究所「パーソナルデータエコシステムの社会受容性に関する研究」(2019)

(3) エネルギー-地産地消×自治体MaaS



荒尾ウェルビーイングスマートシティ（あらおスマートシティ推進協議会）

■ ビジネスモデル

● 南新地ウェルネス拠点開発事業との連携

南新地地区では、旧荒尾競馬場跡地含む34.5haの広大な土地区画整理事業(南新地ウェルネス拠点事業)の開発、及び有明沿岸道路の延伸に伴う荒尾北IC(仮称)の新設が予定されており、将来的には新しい人の流れを生む見込みである。ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた新しいスマートシティ機能を、この南新地地区に埋め込み、新しいピングラボとして運営することで、ニューノーマルの世界における市民や来訪者に求められるサービスを創出し収益事業化を目指す。



● エリアマネジメント組織による事業のトータルマネジメント

南新地地区を中心にエリアマネジメントを行う専任組織を組成し、エリアの魅力向上・価値向上のための各種活動を行いながら、日本版BIDの活用や自主事業の創出等も視野に入れて、資金獲得のスキームを構築する予定。同時に、各種のスマートシティ事業をバラバラに運営するのではなく、全体俯瞰し横断的にトータルマネジメントする機能を持たせることで、各スマートシティサービスの収益事業化を追求しつつ、サービス間連携による相乗効果の創出、事業リスクの分散を図りながら、持続可能なエコシステムの形成を目指す。

＜検討中のスキームイメージ図＞



■ スケジュール

● 中長期スケジュール

R6年度春のまちびらきに向け進行する南新地ウェルネス拠点開発と連携しつつ、市内で各サービスの実証実験を行いながら、段階的に実装しサービス開始していく。

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
南新地ウェルネス拠点							段階的にまちびらき
エリアマネジメント	ウェルネス拠点基本構想策定	エリアマネジメント基礎調査	エリアマネジメント組織形成準備				段階的にエリアマネジメント事業開始
各施設開発		各施設の構想/計画策定、誘致活動			各施設的设计、施工		
スマートシティマネジメント	スマートシティ推進協議会設立	実行計画策定	アーキテクチャ具体化				スマートシティ事業推進マネジメント
ヘルスケア モビリティ エネルギー データ活用 +α	モビリティ実証実験	データ活用 エネルギー ヘルスケア	実証実験				段階的に実装、サービス開始

● 短期スケジュール

R2～R3年度は各サービスの実証実験(PoC/PoB)を行い段階的に実装に移行しつつ、並行して、ニューノーマル時代に求められる新サービスや世界観の再構築を行う。

	R2年度	R3年度
スマートシティマネジメント	実行計画策定	アーキテクチャ具体化、南新地ウェルネス拠点と連携
データ活用	行政手続きのデジタル化 実証実験(PoC) パーソナルデータエコシステム サービス連携検討	実証実験(PoC/PoB)→段階的に実装 段階的に実証実験(PoC/PoB)
ヘルスケア	さりげないセンシングと日常人間ドック 実証実験(PoC) 新サービス案創出	段階的に実証実験(PoC/PoB)
エネルギー	エネルギーの地産地消 実装	実装
モビリティ	相乗りタクシー 実装	実装
+α	+αサービス 構想検討	段階的に実証実験(PoC)

荒尾ウェルビーイングスマートシティ（あらおスマートシティ推進協議会）

荒尾市で今後想定される問題

- 人口のさらなる減少によって・・・
- 賑わいの低下 産業の担い手不足
- 地域経済衰退 医療費の高騰
- 子育て環境悪化 交通機能低下
- 空き家増加 ...

取り組む課題（重点戦略）

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる
2. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる
3. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる
4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる
5. 先進的で持続可能なまちをつくる

重点施策

南新地ウェルネス拠点開発
(競馬場跡地の再開発事業)

+

スマートシティ事業
(ヘルスケア+エネルギー+モビリティ+α)

ニューノーマル時代への適応

生活

健康意識、衛生意識
イエナカ充実志向、節約志向
非三密、アウトドア活動増
家族第一志向
好きな地に居住

働き方

オンライン会議
リモートワーク使い分け
ワーケーション浸透
ワークライフバランス

消費

現金からキャッシュレスへ
テイクアウト・デリバリーのさらなる発展
近場、自然、静かな場所へ旅行 ...

■ まちの将来像・ビジョン

※赤字は感染症対策

